

摂津市議会  
文教上下水道常任委員会記録  
令和5年12月5日  
(教育関連抜粋)

○村上英明委員長

再開します。議案第68号所管分の審査を行います。本件につきましては、補足説明を省略し、質疑に入ります。

(略)

○村上英明委員長

松本委員。

○松本暁彦委員

それでは、引き続きまして、質問をさせていただきます。まず、8ページで、英語指導助手(A L T)派遣業務委託事業です。これの中身について、小・中学校が対象だと思うんですけども、具体的に、それぞれの目的と、どれだけ時間をかけているのかを教えてください。

続きまして、学校水泳指導事業につきましては、先ほど来、質疑がございました。千里丘小学校を対象にということところです。その中で教員の負担軽減、あるいは指導力向上もありました。それを踏まえて、千里丘小学校の教員の指導力が不足しているのか、そういうことじゃないのかと、他校の教員の指導力向上についてはどう考えているのか。今回の他校との関係も踏まえて、少しお考えをお聞かせいただきたいと思います。泳力の維持、向上については本当に必要なことだと思います。時間がない中でつける目的でやっていいのか、そういうところも改めて、他校では、水泳の授業が午前中にあったりとかしている中で、千里丘小学校はできないと思うんです。そういったところの兼ね合いも今、答えられる範囲で教えていただきたいと思います。

続きまして、中学校給食予約システム運用等委託事業の中で、これも先ほど来、質疑がありました。これまでメニューの工夫、そして、前回では予約システムの中で、年間を通して予約できる工夫をされた中で、この10月には9%まで、喫食率が伸びたことは評価をします。その中で、令和6年度以降、さらに喫食率を高める工夫は考えているのか、その点を教えていただきたいと思います。

質問は以上です。

○村上英明委員長

武田課長。

○武田教育支援課長

A L Tについてのご質問にお答えいたします。A L T、いわゆる外国人英語指導助手ですけれども、学級担任や英語の教員等とチームティーチングによるコミュニケーショ

ン能力の育成を図ることを目的に配置しているところでございます。現在、各中学校校区に1名配置しておりまして、各小学校2校に週1回ずつ合計2回、校区の中学校に週3回、派遣しております。摂津小学校につきましては児童数が多いでございますので、別途1名派遣しておりまして、摂津小学校は週2回という状況でございます。以上です。

○村上英明委員長

松本参事。

○松本学校教育課参事

水泳指導の教員の指導力に関してのご質問にお答えいたします。教員の水泳指導に係る指導力が、千里丘小学校は劣っていることは決してないと認識しております。しかし、水泳施設におけるインストラクターの専門性は、すごく秀でたものがあるかと存じません。今回、この取組の中で、他市の事例ですが、子供のアンケート等からも、正しいフォームが身についたという回答を拝見することができました。教員も一緒に引率してまいりますので、教え方や正しいフォームを身につける手順等については、やはり学ぶところがあると考えております。また、2点目の他校との兼ね合いの件です。夏休みの8月を中心に、学校のプールが使えない代わりに、千里丘小学校につきましては、室内施設を利用するので、天候、季節に左右されることが少なく、8月には行われませんけれども、10月、11月までの取組を学校と今、話し合っているところでございます。以上です。

○村上英明委員長

松田課長。

○松田教育政策課長

令和6年度以降の喫食率向上のための工夫についてでございます。これまで特に部活をされているお子さんなどから、ご飯がもう少したくさんあればいいというご要望もございました。令和6年度以降、普通盛りと大盛り等を選択できるシステム改修をしていきたいと思っております。以上です。

○村上英明委員長

松本委員。

○松本暁彦委員

2回目の質問をさせていただきます。まず、1点目のALTの派遣業務委託事業についてです。中学校、小学校等の中身について、まず、コミュニケーションというところで理解はしました。こちらについては、いわゆる市独自の施策と認識をしてるんですけど、7,950万円という金額です。私も、特に英語を身につけるに当たって、必要性が非常に大事になってくるかと思っております。私の個人的な話ですけども、私も仕事で海外に行くときがありまして、その前に、英語の研修を、半年近く受けました。実

際その前は全然英語ができなかったけれども、仕事上も必要性があるので、発音や舌の動き方など、一から学んで、ある程度伸びたところで現地へ行って約半年間、現地で話すことによって伸びていると実感しました。そういった中で、今まで中学校、高校あるいは大学と、私が授業の受け方が悪かったかもしれないですけども、英語でコミュニケーションを発揮する能力をそこで養えたのかというのは経験上、疑問視しているところがございます。何が言いたいかという、文部科学省も言っています、国語力とかコミュニケーション、そういったものを一定身につければ、後からでも、本当に必要性があれば、本当に身につくというところがございます。今、小学校、あるいは中学校で、英語を学ぶことは必要かもしれないですけども、いじめとか、コミュニケーション不足だったりとか、やはり国語力の不足だったりとか、そういったところが、非常に重要になってくるんじゃないのかと。ALTに約7,900万円というお金をかける中で、英語を身につける、本当にその効果はどこまであるのかを、もっとしっかりと見るべき必要があるのではないのか。英語に親しむというか、英語を話す能力を小学校で身につけるのは、当然無理な話です。中学校でどこまでのレベルで英語に触れさせるか、必要性を意識させるところに目的を置くのかとか、やはり、その効果をしっかりと考えていく必要があろうかと。特に英語については強く思うところがございます。文化に触れるとかであれば、ALTでなくて、例えば国際交流協会の方を活用するとか、そういった手法もあるのではないかと思います。ALTありきではなくて、本当に目的と効果に合致しているのか。ただ、そのALTをつければいいというものではないのかと思いますので、摂津市の子供たちにとって本当にどうあるべきか、いま一度、しっかりと検討していただきたいと思います。コミュニケーションが取れない子供たちは、日本人にすらなかなか取れないんです。それが海外の人になんて、できない話です。そこは学校教育課の話にもなってくるとは思うんですけども、まず母国語である国語をしっかりと、コミュニケーション力を取る。そして自己主張ができる、そういったところを養っていく。そこが基盤となって、英語力の発揮になってくると思いますので、どこまでALTに英語力を求めていくのかは、しっかりと検討していただきたいと思います。私も、また直接ALTの授業とかを見に行ってみて、どのようなものか、確認させていただきたいと思いますので、これについては要望とさせていただきます。

次は、学校水泳指導事業です。もちろん千里丘小学校の教員の指導力が不足しているわけではないと認識はしております。確認の上で聞かせていただきました。今おっしゃられたように、専門のインストラクターの指導を得ることで、教員の能力がさらに向上するところは、私もそうかと思えます。せっかく泳力を向上させる目的であれば、実際の状況を確認した上で、やはり教員の指導力が大幅に上がったとかであれば、他校の水泳指導においても、インストラクターを活用するとか、例えば、研修会を開くとか、そういったところもぜひこの2年間を踏まえて、その先も見据えて、少し検討していただきたいと思います。大阪府の南部地域では、お聞きするに、プールが老朽化して、改修よりは民間とかに託す手法もあるとお聞きをいたしました。まだ、摂津市ではそこまでは至っていないと思うんですけども、今後、施設改修とかにおいても、千里丘小学校の事例が実際に生きてくるかもしれないので、将来的に水泳指導がどうあるべきかも踏まえて、この2年間、しっかりと選定をして、取り組んでいただきたいと思えます。

これも要望とさせていただきます。

最後に、中学校給食予約システム運用等委託事業です。大盛りサービスをしていただけるということで、金額は上がらないということです。やはり成長期で、おなかがすぐ子供たちがしっかりと御飯を食べられる。そして大盛りというところで、より一層、喫食率が上がるんじゃないかと、期待するものでございます。ぜひそういった工夫もどんどんしていただければと思います。これについても、子供たちと保護者にとって望ましい中学校給食、そして予約システムの改修を令和6年度からもしっかりとやっていただければと思いますので、要望とさせていただきます。私からは、以上です。

(完)

○村上英明委員長

再開します。議案第95号、議案第96号及び議案第97号の審査に入ります。本3件については、補足説明を省略し、質疑に入ります。

(略)

○松本暁彦委員

それでは、1点だけ、議案第95号、これも先ほど来も質疑ございました。摂津市の学力定着度調査とか、いろいろと本市の子供たちの読書時間が短い特性がある中で、子ども読書活動の推進を先ほど来これが評価されたところです。昨年度の指定管理者の評価シートを見ますと、例えば市内の学校図書館担当者会議を2回開催し課題の共有、解決に向けた取組を検討していたと記載しております。具体的に子どもの読書活動の推進、学校とも連携したところを、どう期待されているか、どう考えているのか、継続性を維持しているのか等も含めて、聞かせていただきたい。質問は1点です。

○村上英明委員長

千葉課長。

○千葉生涯学習課長

まず、子ども読書活動推進計画に基づいての提案をいただいている分です。学校とかにおける子供に対しての本と出会う機会や読書のきっかけをつくったりですとか、また今も実施していますけども、お話会とか企画展示、あとは受託事業者の事例になるんですけども、赤ちゃんアート撮影会をやったりとかです。提案いただいているのは、今、配架している書棚について、児童書等に関しては、子供の目線が下なので、低くした配架を心がけると書いておりました。現在より、子供が入ってきたときに、目に本が真っすぐ入ってくるような、手に取ってもらえるような配架を考えると書いていました。すごく子供視点ですとか、子供の立場に立った提案をしていただいております。もう一つの継続性に関しましては、仕様書に現在やっている事業につきましては、基本継続して

いただくように、全部盛り込んでおります。今、土曜日にやっているものとか、お話しとかに関しましては、毎週1回してくださいということで、今の図書館サービスが落ちないように、配慮して、仕様書を作らせていただいております。以上でございます。

○村上英明委員長

安田部長。

○安田教育総務部長

少し追加で答弁させていただきます。委員がおっしゃいますように、本市の全国学力学習状況調査の中で、本市の児童は読書を全くしないとか、読書時間が短いといった割合が高い状況でございます。そういった観点からも、子供が読書習慣や学校外での居場所として親しめる図書館を目指していくことが必要と考えております。今回の公募に当たりましては、子ども読書活動推進計画にも位置づけしている子どもの居場所づくりや子ども食堂、学習支援の取組団体との連携も新たに仕様に加え、子供と本をつなぎ、本の楽しさを知ってもらうための取組を充実させる。こういったこととともに、専用のホームページ開設やSNSなど、情報発信の強化により、多くの市民の方にも利用いただける図書館につなげたいと考えております。

学校との連携の部分で言いますと、今回のナカバヤシ株式会社の図書館管理運営の実績を見させていただいても、図書館の運営だけでなく、小学校の学校図書活動充実業務の受託実績もでございます。そういったノウハウも生かしていただく中で、うまく学校と連携し、本市の児童・生徒との学習習慣につなげていただけたらと期待しているところでございます。

○村上英明委員長

松本委員。

○松本暁彦委員

要望とさせていただきます。詳細な御答弁ありがとうございました。特に子ども読書活動の推進において、各学校との連携をぜひ、密にさせていただきたいと思っております。学校、先生によってすごく工夫をされて、教室内で文庫をしたりとか、学校内の図書室とも連携したりしている。さらに様々なジャンルの本とかがあれば、一層子供たちが興味を引く図書館との連携も、先ほど部長がおっしゃられたように、小学校の図書室でもそういう業務も経験をしているので、ぜひぜひ一層連携を密にいただき、ぜひ生涯学習課からも強く言っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。以上です。

(完)